キャラクター名
シリウス・ドレーク

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー モルフェウス	ワークス	何でも屋	カヴァー	UGN支部長代理補佐
オプショナル		年齢	自称28	性別	雄
覚醒	渇望	衝動	自傷	初期侵食率	36 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0	1		5
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：	1		情報： 噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
西洋剣	白兵	5r+2	4	4		ゲーターマチェットG1576
通常攻撃(6dx8+1)	白兵	5r+2		4		西洋剣+C:サラ+炎の刃(固定値+6)
水無月(5dx7+1)	白兵	4r+2		4		西洋剣+C:サラ+炎の刃(固定値+8)+クロスバースト(固定値+12)
戦女神の鏡盾(ミラージュ・オブ・アイギス)		0	4			西洋剣+砂の結界+氷盾+魔神の盾+氷雪の守護(G値+20-D値4d10)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウェポンケース	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
複製体	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
C：サラマンダー	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果： クリティカル値-Lv								
炎の刃	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果： 攻撃力+(LV*2)								
クロスバースト	3	4	メジャー	-	-	対決	80↑	
効果： 攻撃力+(LV*4)　判定ダイス-2個								
氷盾	3	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ガード値+(LV*5)								
魔人の盾	3	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ガード値を+LV*10　1シーンに1度使用できる								
砂の結界	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ダメージロール直前に使用するし、カバーリングを行う								
砂の祝福	2	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果： 砂の結界のカバーリング距離を(LV*10)mに増やす								
氷雪の守護	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： 自身が受けるダメージを-(LV+1)D点する								
吹雪の守護	1	2	オート	至近	範囲選択	自動	80↑	
効果： 氷雪の守護を範囲化								
蒼き悪魔	4	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ガードする際攻撃したキャラクターに［LV*3］点ダメージ。１R1回								
温度調節	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：								
セリアンスロープ	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：								
効果：								

一人称：私
二人称：お前/貴様/〇〇(呼び捨て)
三人称：奴/奴ら/〇〇(呼び捨て)

人物
悲観的で自虐的な皮肉屋。どこか諦めているような物言いをしており、なにかと皮肉めいた言い方をする。
基本的には冷徹な仕事人であり、理想も思想もなく、悪に加担しようが善で抗おうが、最終的に帳尻を合わせるただの掃除屋と称している。
また、生来のお人好しであるため、文句を言いつつも面倒を見てくれたりする。

能力
サラマンダー/モルフェウスのクロスブリードであり、ヒットアンドアウェイが主な戦闘スタイル。
得意とするのは水属性であり、水を操り失った右手に代わる義手を作り出したり、水を用いて防御することが可能。

セリフ
「調子がいいじゃないか。少しは自信が持ててきたんじゃないか？ 結構。その意気だ。」
「失敬、少し頭が痛くなってね。つい眉間を押さえてしまった。ああ、うちの飼い主である彼女のことだ。こちらに来て少しは大人しくしてくれるだろうと期待をしたこちらが馬鹿だった。」